デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2024年（令和6年）4月19日（金曜日）（1）

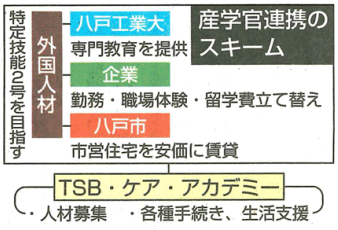
熟練外国人労働者 八工大が育成支援

特定技能２号 取得目指す

特定技能２号の取得を目指し、ミャンマーから来日した留学生＝18日、八戸工業大

八戸工業大（坂本禎智学長）は18日、永住可能な在留資格「特定技能2号」を取得できる熟練外国人労働者の育成に向け、産学官連携による取り組みを開始した。建設、自動車整備、工業製品製造業分野の3コースを設け、留学生に6カ月間の専門教育を提供。最長5年働ける「特定技能1号」の取得を経て、修了後は就職先の国内企業で2号取得を目指す仕組み。工業系大学では先進的な試みで、企業の人手不足の解消、ものづくり産業への貢献、地域定住につなげたい考えだ。（工藤洋平）

企業、行政と連携 取り組み始動



特定技能は、深刻化する人手不足を受け、労働力が特に不足している産業分野の人材確保を目的とし、2019年4月に創設。現在は1号が介護、建設、農業など12分野、2号が介護を除く11分野の職種がある。

同大の取り組みは、登録支援機関のTSB・ケア・アカデミー（東京）、青森県内外の企業、八戸市が連携。4～9月は建設と自動車整備の2コースに、ミャンマーから各4人が受講。10～3月に行われる工業製品製造業分野のコースには16人が来日する予定だ。

募集対象は、大卒レベルで、日本語能力試験のN4以上を取得した日本語を理解できる人材。留学前に企業との面接が行われ、学費は内定先の企業が立て替えるが、3年就業すれば免除になる。大学の専門教育が行われる6カ月間は、職場体験として同職種で週28時間のアルバイトに従事。市は住居として市営住宅を安価に貸し出す。

同大の担当者は「大学で2号につながる高度教育が受けられ、来日の際に、多額のマージン（手数料）が発生しないのが特徴」とアピールする。

18日、同大で行われた入校式で、坂本学長は「特定技能分野の産業を支える人材として成長し、活躍することを願っている」と激励した後、留学生一人一人が決意を述べた。

ミャンマーでは21年に軍事クーデターが発生。優秀な人材が大学に行けず、仕事先もない状況が続いているという。

式の後、附田建設（六ケ所村）に就職が内定するチョ・ジン・テさん（22）は「学んだ建設技術をミャンマーの若い人に教えたい。家族と一緒に日本で暮らしたい」と目を輝かせた。

同社の千田昇社長は「建設業は人材不足で外国人の採用は初めて。一緒に働く仲間として楽しみだ」と期待を寄せた。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。